

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年8月11日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872100805		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	勝田ケアセンターそよ風	ユニット名	いわれんげ
所在地	〒312-0011 茨城県ひたちなか市中根2444-1		
自己評価作成日	平成23年2月23日	評価結果 市町村受理日	平成23年8月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年4月20日	評価確定日	平成23年7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>地域密着サービス事業所として、地域との連携を図るため地域交流会の実施や地域の行事への参加に心掛けており、小学生の研修課題の協力や地域住民の方々のボランティアの受入れも積極的に行っている。</p> <p>また、併設デイサービスとの連携も図れており、行事やイベントへの参加も出来るような体制づくりをしている。福祉車両を5台保有し、内4台が車椅子対応車両となっているため、車椅子ご利用者の外出も頻繁に実施しており、四季折々の風景を楽しみ、季節感を味わっていただいている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>職員は利用者が事業所を生活の場であると実感し、ゆったりと楽しく自由に「当たり前の暮らし」ができるよう支援をしている。</p> <p>職員が付き添い受診支援をするほか、散歩や買い物、ドライブ、季節毎の行事、催し物は利用者の楽しみとなっている。</p> <p>職員は日々のおやつ作りを支援し、材料を刻んだり混ぜる作業は利用者のリハビリにつながり、利用者同士の交流を深めている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で事業所独自の基本理念をつくり、職員の目に付くところに掲示している。職員が実践できるように簡潔明瞭なものとし、日々の業務を遂行している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し事務室に掲示するとともに、職員で共有し実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議にて自治会長を通して自治会への加入をお願いし、実現した。地域の行事へ積極的に参加するよう心掛けている。また、近隣の公園等に散歩に行った際には、地域住民と挨拶や会話をし、交流を図っている。	利用者は日頃から散歩などで近隣住民と挨拶や会話を交わしている。 町内会に加入し、資源ごみ回収などの地域行事に参加している。 併設する通所介護事業所と連携を図り、地域との交流会や施設見学会、認知症相談会を開催したり、音楽演奏や寸劇、傾聴などのボランティアや小学生や中学生の職場体験を受け入れ、利用者が地域の人々と交流ができるよう支援をしている。 東日本大震災時は、水道が復旧するまで近隣住民の井戸水の支援を受けた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に地域交流会を開催し、気軽に立ち寄っていただけるような環境作りを実践している。また、見学に来られた方に認知症についての理解と支援の方法の資料をお渡ししている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加されるご利用者・ご家族・自治会長・民生員・地域包括支援センターの方々に、サービスの取組みに関する報告し、会議での内容をミーティングにて紹介している。また、取り上げられた内容を基に職員で話し合い、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は地域包括支援センター職員を含めた委員で2ヶ月に1回開催している。会議では利用状況や行事報告、レクリエーションの紹介、地域との係わりを報告するほか、委員からの要望や助言を受け課題を話し合い、サービスの質の向上に活かしている。利用者が安全に散歩ができるよう近隣公園の歩道が整備されるなど、会議で出た意見等が活かされている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所担当者に毎月利用状況報告書を提出している。また、相談等がある場合には、随時訪問、連絡を取りながら連携を図っている。	管理者は利用者の状況やサービスの取組みについて市担当者に相談するなど、協力関係を築くよう取り組んでいるほか、市が主催する地域密着型サービス事業所の連絡会に参加し、市担当者や他事業所と情報を交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に身体拘束に関する勉強会を実施しており、事業所全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成するとともに、身体拘束廃止委員会を設けて定期的に勉強会を開催し、全職員は玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアを理解し実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、定期的に高齢者虐待に関する勉強会を実施しており、事業所全体で虐待防止の意識付けを行い、利用者の対応には細心の注意を払うよう心掛けている。また、職員のストレスを発散できるような場を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の必要性があれば、活用できるよう日頃の支援に努めている。また、定期的に成年後見人制度や権利擁護に関する説明を実施している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする際には、契約書や重要事項説明書に基づき、説明を実施している。退居時には清算書を作成し、十分な説明を行い、理解・納得を得ている。また、料金改定等の場合は、家族に連絡し、説明書にて理解を得てから実施している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と接する時間を大切にし、気軽に相談していただける環境を作っている。また、家族にも面会に来られた際に意見や要望等を伺っているが、直接話しづらい事は意見箱を設置し、苦情や要望等を受け、運営に反映させている。	意見箱を設置し、利用者や家族等が苦情や要望を出せる機会を設けている。 職員は利用者との日々のふれ合いの中から意見や要望を聴くよう努めている。 毎月家族等に事業所便りを送付し、利用者の日頃の様子を伝えることで家族等の意見や要望が出易くなるよう努めるほか、家族等の来訪時や家族会、クリスマス会などで意見や要望を出し易い雰囲気づくりに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的に会議を実施しており、意見や提案をする機会を設けている。また、発言しやすい環境作りのため、日頃からコミュニケーションを図っている。	職員は提案や気付きなどを「提案ノート」に記入し、管理者に提出している。 管理者は月2回から3回、全体会議とグループ会議を開催し、職員から出た意見等について話し合い、運営に反映させることで職員が向上心を持って働けるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	積極的に社内外研修に参加し、向上心を持って働けるよう支援に努めている。また、実績によるインセンティブ支給等があり、職員も意欲を持って働ける環境にある。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力を理解した上で、職員個人に必要な研修参加を勧めている。また、参加できなかった職員にも情報提供ができるよう発表の場を設け、意見交換や情報の共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	支社内（県内）で職員の研修実施や毎月開催している県内支社会議を行うことで、自他センター内の課題を検討・実施し、サービスの質の向上に努めている。また、市役所主催で定期的に行われる地域密着サービス説明会に参加し、同業者との意見交換を図る等、ネットワークづくりに取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント等からの情報を踏まえ、見知らぬ場所での戸惑いや不安を少しでも軽減できるよう職員とゆっくり話す時間を作っている。会話の中から希望等を汲み取り、支援していけるよう職員間で情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や困ったこと、要望を聞き入れ、不安の解消や要望に応えられるよう努めている。疑問等には、納得いくまで説明を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先して行うべき支援は何かを見極め、長期目標および短期目標が達成できるよう他サービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常にご利用者の立場に立つことを念頭に置き、外出や行事を一緒に楽しんでいる。ご利用者の話に傾聴し、昔話や日常の話の中でコミュニケーションを図り、日常の食器拭きや洗濯物畳み、掃除等の家事を一緒にやり、寄り添う介護を実践している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に2回の家族会など、定期的にご利用者と家族と一緒に過ごす機会を設け、参加の呼びかけを行っている。面会に来られた際には、コミュニケーションを図り、より良い関係を築くよう努めている。また、毎月状況報告としてご利用者の様子を書面でもお知らせしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来ていただけるようご家族の方にも声掛けしている。今までの生活で使用していた物品等を居室に置くことで環境の変化を感じさせず、安心して生活を送れるよう支援している。	利用者は併設する通所介護事業所を利用している近隣の方と交流している。 職員は利用者の馴染みの人に来訪してもらえるよう、家族等を通して働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのペースを尊重しながら、ご利用者同士の会話等のきっかけづくりを職員が間に入り支援・実施し、多くのご利用者に関われるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退居された方には、お見舞いに行き、現在の状況を把握するよう努めている。その際、ご家族とも話しをしてコミュニケーションを図り、心のケアに配慮している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	定期的にご本人やご家族の希望を聞き入れ、全スタッフがケアを統一できるように努めている。また、無理にホームの生活に合わせる事のないよう一人ひとりの希望に沿えるよう検討している。	職員は利用者との日々の係わりの中で声をかけ、言葉や表情などから思いの把握に努めている。 意志疎通が困難な利用者には、家族等や関係者から情報を得るように努めている。 利用者の希望にそって継続して新聞の購読ができるよう支援するなど、職員は利用者の意向にそった支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前時にご本人やご家族より、今までの生活歴や生活環境、サービス利用等の情報を収集し、より良いサービスを提供できるよう努めている。また、馴染みの物を持ち込んでいただき、安心して生活できるような環境作りを提案している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活状況や心身の状態を常に把握し、勤務交代時にも全スタッフが同じ情報を把握できるよう会議で話し合い、書面や口頭での申し送りを実施している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や連絡を取るなどしながら、ご家族からの意見を反映した介護計画を作成している。また、ご本人やご家族からの意見・要望などについて、モニタリングを通し随時変更している。	介護計画は利用者や家族等の希望や意向を取り入れ、関係者と話し合って作成している。 6ヶ月毎にモニタリングや評価を行い介護計画を見直すとともに、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は随時現状に即した介護計画に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の表情や身体状況等を観察しながら、個人記録の記入を行っている。この記録を通じて職員への情報を共有化し、ケアの実践や介護計画のモニタリングなどに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスでの行事やイベント等開催時には、参加できるよう連携を図ると共に、地域開催の行事へ参加し、地域住民とのコミュニケーションを大切にしている。また、地域ボランティアの受け入れも積極的に行い、外部との関わりも図っている。気分のリフレッシュを図るため、買物やドライブ等も随時実施。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に1度程度、ボランティアの方が定期的に来所し、話し相手や歌などのレクリエーションに協力していただいている。また、消防署や小中学校等とも連携し、避難消火訓練や学生の職場体験、ボランティア等の受け入れを行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の説明を行い、承諾を得ている。定期的な嘱託医による往診を実施している他、紹介状をいただき他医療機関への受診など協力体制ができています。また、ご本人またはご家族の希望の医療機関がある場合はそちらを優先している。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援し、受診結果と服薬について職員は把握している。 協力医療機関の医師が月2回訪問診療に来訪したり、他医療機関への受診時に紹介状を出してくれるなど、協力体制を築いている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを必要に応じて職場内の看護職員に相談し、日頃から連携を図っている。また、発熱などの身体状況の変化や事故等が起きた際には昼夜問わず看護職員に連絡し、様子を見てもらうような関係が築けており、受診等の適切な対応が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、入院先の医療機関に必要情報を書面および口頭にて提供し、利用者が安心して治療ができるように努めている。また、2～3日間隔で面会に行き、利用者の状況を担当医・看護師と相談や情報交換をしながら、早期退院ができるような関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員全員で今後の方針を話し合い、ご家族やかかりつけ医と話し合いの場を設け、関係者全員で方針を共有している。また、早い段階から「できること・できないこと」を十分に説明し、かかりつけ医と共にチームとしての連携を図り、支援に取り組んでいる。	看取りに関するマニュアル及び重度化や看取りに関する事業所の対応指針を作成し、事業所でできることとできないことを利用者や家族等に契約時に説明し同意を得ている。 早い段階から利用者や家族等と話し合い終末期に向けた方針を共有するとともに、段階毎に利用者や家族等の意志を確認している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルや、応急手当の勉強会を実施し、実際の場面で活かせる技術を習得できるよう定期的実施している。また、吸引や心臓マッサージなどの方法も併設デイサービスの看護師から指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施し、避難経路や避難方法、負傷者等の搬送方法などの訓練を日中・夜間仮定で行い、火災や自然災害時に備えている。また、運営推進会議等を通して、近隣住民の方や自治会長、民生委員にも協力を呼び掛けている。	様々な災害や夜間などの発生時間を想定した避難訓練を年2回実施している。緊急連絡網を掲示し、火災時の通報訓練や避難経路の確認をしている。運営推進会議で近隣住民の協力を呼びかけているが避難訓練に参加を得るまでには至っていない。 災害時に備え備蓄品を用意していたが、東日本大震災でライフラインが4日間停止した際には備蓄していた食糧や飲料水、毛布類だけでは不十分だった。	災害時に備え、必要量の備蓄品を確保できるようリストを作成したり、運営推進会議などで検討することを期待する。 避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう、更に働きかけることを期待する。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や失禁等の時は、気分を害したり、プライバシーを損ねることのないよう希望や状況に合わせた言葉掛けをし、他利用者に気付かれないよう見えないところで対応するようにしている。食事の際にも食べこぼし等をさりげなく取り除いたり、声掛けに配慮している。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りを損ねないよう、目立たずさりげない言葉かけや対応に努めている。 職員は守秘義務について十分理解し、利用者の書類は事務室の所定の場所に保管している。 事業所便りなどへの写真や名前の使用は家族等の承諾を得るなど、個人情報には責任ある取り扱いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活のあらゆる場面で、利用者が理解出来るような説明をし、意思確認を行いながら支援をしている。また、自己決定していただけるような声掛けを実施し、ご利用者本位の希望に沿えるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、ご利用者やご家族の希望を聞き入れながら、一人ひとりの生活のペースに合わせて1日を送れるよう支援している。特に入浴やリハビリ、外出などは利用者の都合に合わせたケアの提供に配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や毛染めなどは職員に美容師免許の有資格者がいるため、本人や家族からの希望を聞きながら定期的に行っている。洗面や髭剃りなどの整容についても毎日行い、女性利用者には化粧やマニキュア、眉カットなども頻度を実施し、身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みや味付け、硬さなど出来るだけ要望を聞き対応している。また、準備や片付けについては職員と一緒に、出来ることを無理なくしていただいている。	職員は利用者の要望を取り入れて調理方法を工夫したり、食事が楽しめるよう、寿司ご膳や春の釜飯井など春の食材を取り入れた「美食祭り」を実施しているほか、少人数毎の外食を支援し、希望する食事ができるよう取り組んでいる。 自家菜園で収穫したさつまいもを利用して干しいもを作ったり、粟でやき大福を作るとは利用者の楽しみでありリハビリにつながっている。 利用者は状態に合わせて、職員と一緒に配膳や後片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を常に確認しており、不足している利用者には摂取して頂けるような飲み物を提供し、促している。食事もその方の状態に応じて常食や一口大、刻み食、ミキサー食で対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをして頂くよう促し、就寝前には義歯洗浄剤を使用している。また、ご本人の力に応じて介助や見守りをしており、歯磨きが出来ない方には、ガーゼや口腔用消毒液で洗浄し、口腔内の清潔の保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄チェック表を作り、排泄パターンの把握に努めている。食事の前後はトイレ誘導や声掛けを実施し、また、紙おむつやリハビリパンツを使用している方でも、トイレで排泄を促すよう支援している。	職員は利用者一人ひとりの排泄チェック表を活用し時間を見計ってトイレに誘導をしたり、利用者の様子からサインを察知して声かけ誘導し、トイレで排泄ができるよう支援をしている。 リハビリパンツを使用している利用者にも声かけ誘導し、トイレで排泄ができるよう支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表による排便管理・把握に努めている。また、普段のレクリエーションの参加や体操、歩行練習で体を動かす、水分を多く摂取していただく等、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ホームの浴室だけでなく、併設施設の浴室を利用したり、利用者個人の希望に合わせた時間で対応している。また、一般浴が困難な方には機械浴で対応している。	利用者の意向にそって1日おきの入浴となっている。 入浴剤や菖蒲湯、柚子湯などで季節感を取り入れたり、併設する通所介護事業所のミネラル温泉の広々とした風呂を使用するなど、入浴が楽しめるように支援をしている。 一般浴が困難な利用者には、機械浴で対応をしている。 入浴を拒む利用者へは「温まりましょう」と声かけに工夫をしたり、「明日、入浴しましょう」と約束をして実行している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方はホールで職員と過ごしたり、ホットミルクやお茶を飲んだりお話をして眠くなるまで待つよう対応している。また、日中の休憩時間も個々の安眠リズムも大切にしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については誤薬防止のため服薬の際に職員が2人体制で確認している。また、職員は服薬している薬の目的や副作用等を理解しており、薬剤情報に関しては個人ファイルにて管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしぼりや配膳、食事の準備や片付け等、ご利用者の状態に合わせた役割作りをしている。また、ゴミ出しやカーテンの開け閉め、掃除、菜園の水やり等、個々人で役割を分担し支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により外出先を決めたり、行事やイベントの開催を事前に調査し、ご利用者に喜んでいただけるよう支援している。また、希望があれば、ご家族と外出する機会も設けている。	職員は利用者一人ひとりの体調に配慮したうえで、散歩に出かけられるよう支援をしている。 職員は季節毎に行事を計画し、利用者が花見や行楽地に出かけられるよう支援をしたり、普段は行けない場所へもドライブで出かけるよう支援をしている。 買い物に出かけた際にはお茶を飲んだり、コミュニティーセンターの展覧会に立ち寄っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状態に合わせて小額の現金管理をしていただいております、自己管理が難しい方は、買物時等に支払いをしたり、現金に触れる機会を作るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、電話をしたり手紙のやり取りが容易にできるよう支援している。電話が掛かってきた際にはご本人につないだり、また手紙などの郵送物があればご本人に渡し、希望があれば手紙を読んだり、執筆が困難な場合は職員が代筆するなど対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しや眩しさが気になる場合は、レースまたは遮光カーテンを閉める等して目が疲れないよう配慮し、窓の開閉により外からの不快な音を遮断している。共用空間にはご利用者とスタッフによる手作りの季節の飾り物やご利用者の絵や書道、行事の写真飾っている。また、玄関には、季節の花を飾り、より良い空間づくりに努めている。	居間兼食堂の大きな窓からは四季折々の景色が眺められ、採光を取り入れたりカーテンで陽光を調整している。 壁にはレクリエーションや行事の写真、利用者の作品、季節の花の造形物が飾られているほか、玄関には花が活けられるなど、季節感を取り入れて居心地良く過ごせるよう工夫をしている。 共用空間のテーブル席の足下に足を乗せる台を用意し、利用者が疲れないように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを置き、くつろげる空間を提供している。他にテーブルが3台あり、自由に移動し、利用者同士が会話やお茶の時間を楽しめるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたタンスや椅子、仏壇等を居室に持ち込まれたり、テレビやラジオ等の設置など、居心地良く安心して生活が送れるよう配慮している。また、ご本人の気に入っている写真や絵画等を壁に飾ることができるよう支援している。	利用者は居室に使い慣れた家具や仏壇、思い出の置物、写真、趣味の品、観葉植物を持ち込み、安心して暮らせるよう工夫をしているほか、テレビやラジオを置き、一人の時間が楽しめるよう工夫をしている。 地震対策のため写真や置物は低目の棚に置くなど、安全に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室のドアには、他ご利用者が使用しているか否かが分かるよう札を付け、分かりやすくしている。また、浴槽やトイレ、廊下等には手すりが設置されており、出来るだけ残存機能を活かせるよう安全な設計になっている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 勝田ケアセンターそよ風

作成日 平成23年8月8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害時における食糧や飲料水等の備蓄品の不足、避難訓練の近隣住民の参加	1週間程度の食糧および飲料水の確保。近隣住民への避難訓練定期参加	震災後、災害に備え、食糧や飲料水等の備蓄品、懐中電灯やランタン、電池等を購入した。また、運営推進会議にて、非常災害時における対応等の話し合いを実施した。今後、回覧板等で避難訓練への積極的参加の呼び掛けを実施する予定。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。